

フレッシュあげおの会社訪問



廃塗料を100%リサイクル 環美

■株式会社 環美 Kanbi
 本社/東京都板橋区前野町4-13-3-104
 TEL.03-3966-0153 FAX.03-6454-5367
 工場/上尾市領家1164-1 領家工業団地内
 TEL.048-780-7766 FAX.048-780-6668
 http://www.jet-p.jp
 ■聞き手/「上尾商工会議所青年部 2013フレッシュあげお」
 芳賀 杏奈さん

燃さない・流さない・埋めない 日本初! 完全循環型の 廃塗料固化処理を実現!

環美は、2001年4月に設立。浄水システムなどの企画開発を手がけた後、産業廃棄物である廃塗料の固化処理の研究開発に着手。実証のために上尾・領家工業団地内に自社工場を開設し、2004年に国の許認可を取得。日本初の廃塗料専門処理認可工場として、2007年から本格稼働しました。2011年、「東京都経営革新優秀賞」奨励賞を受賞。今年5月に、設備拡充のため、同工業団地内の近隣ブロックへ移転。敷地面積も6倍に広がり、処理能力も増強した新工場を訪ね、代表取締役・井出次男さんにお話をうかがいました。

芳賀 御社の廃塗料処理システムの特徴について教えてください。

井出 液状の廃塗料は、産業廃棄物の「廃油」に分類されます。従来の処理方法は、中間処理として99%が焼却処理され、残った焼殻は埋立処分されていました。廃塗料は単体では燃やしません。1リットルの廃塗料を燃やすためには、燃料として、4リットルの木くず・紙くずが必要なんです。また、焼却炉に液体のまま投入すると、壁面に付着したり、揮発性のあるものは爆発したりして危険です。そこで、環境にやさしく、資源原料として100%リサイクルできる「固化処理システム」を開発したのです。廃塗料に弊社開発の安定固化剤「ジェット-P」を混練すると、一滴の水分を流すことなく瞬時に固化して粒状の乾燥固化物となります。「セメント原料」として再資源化を図ることにより、焼却も埋め立ても不要となりました。

芳賀 焼却による二酸化炭素や煤煙・焼却灰など

の発生も防止できるのですね。新工場では、どれくらいの処理能力があるのですか？

井出 24時間体制で対応し、処理能力も1日当たり9.6トン(ドラム缶で約50本)と当初の約3倍に向上しました。“燃さない(CO₂ゼロ)・流さない(100%固化処理)・埋めない(セメント原料として資源化)”がキャッチ・フレーズです。

芳賀 今後の抱負について、お聞かせください。

井出 処理手続きに必要な諸々の許認可を取得し、東京都塗装工業協同組合指定処理工場・埼玉県塗料商業会指定業者となっています。東京・埼玉・神奈川・千葉・茨城・栃木・福島が自社便でルーティンできるエリアですが、収集運搬業者からの搬入・受入は可能ですので、全国から問い合わせが殺到しています。マスコミで大きく紹介されたこともあり、新工場開設時は見学者が多くて、仕事にならないほど忙しかったんですよ。現在、大手セメント会社・建設会社・塗料メーカー等々、顧客数は2000社以上あります。これからのテーマはコストダウン。現在でも、従来の処理費用に比べて半額以下の料金設定となっていますが、厳しい経営状況の中で「ゴミ(使えないもの)にお金をかけたくない」というのは本音でしょう。企業としてコンプライアンス遵守という観点からも、わが社の廃塗料固化処理技術を広く認知していただき、環境保全で社会貢献したいと思っています。失敗を怖れず、「自信」と「行動」がキーワードです。



▶ホームページやパンフレットに描かれているペンギンのイラストなど、デザインはすべて井出社長が手がけたのです



◀工場2階のオフィスにて、井出社長と芳賀さん



▲環美が誇る固化処理プラント。自社開発した安定固化剤(ジェット-P)により、トロトロだった廃塗料がサラサラの粒状になります(写真右)



◀工場内には搬入された廃塗料の一斗缶やドラム缶がぎっしりと並び、固化処理を待ちます。24時間体制で完全循環型処理に取り組み、同社では、周辺への環境・安全性にも最大の配慮を講じています



◀同社でリース販売している塗装現場水溶性塗料洗い水排水ろ過装置「エコシンク」。建設・工事現場における水溶性塗料の洗い水もれつきとした“産業廃棄物”で、これを浄化し、法的基準に従ってクリーンな排水を実現した画期的な製品として脚光を浴びています



産廃塗料処理専門認可工場

